

「ギボン自叙伝 わが生涯と著作との思ひ出」

岩波現代文庫、岩波書店 1943年12月10日刊を読む

1 .人間一般の運命をよく考へて見ると、私は人生の籤引で好い籤を當てたことを認めねばならない。地球の大部分には野蠻状態や奴隷制度が一面に広がって居り、文明社会でさへ最も数の多い階級は無知と貧乏に陥って動きがとれぬ有様である。文化の進んだ自由な国で、しかも名誉ある裕福な家庭に生れたといふ二重の幸運は、何百萬に對する一といふ合わせな運り合せである。又新たに生れた嬰兒が満五十歳まで生き延びない確率は略三對一である。今私はその年齢を通り越したのであるが、こゝに私の生活の現在の價値を、精神・肉體・財産の三つに分けて公平に評價することが出来るであらう。

(1)幸福の必要缺くべからざる第一条件は、疚しい行為の咎めや思ひ出に汚されない潔白な良心である。

ラテン語 これを以て汝の金城鐵壁たらしめよ、自ら顧みて疚しき點なく、罪のため蒼ざむることなきを。(ホラーティウス「書簡集」一ノ一、五九行)

私は生れつき、快活な氣質、穏和な感情、活動よりも平静を好む傾向などを備えへ居り、有害な欲望とか習慣とかはたぶん哲学或は時の力によつて矯正されたと思ふ。學問愛即ち楽しむことによつて新しい力の出て来る情熱が、毎日否毎時、他に頼らない正しい快樂の盡きせぬ源を供給してくれ、私は自分の精神諸能力が些かも減衰したことを感じない。もとの土壤は耕作によつて大いに改良されたけれども、空想の花とも云ふべき幾つかの楽しい誤謬が、偏見の雜草と一緒に根こそぎにされはしなかつたかといふ疑問も抱き得るであらう。

(2)幼年時代の長期の危険を脱してからは、醫師の重大な勸告を受けねばならない

経験は、これとは遙かに異つた教訓を私に與へたのであつて、「ローマ史」作成の仕事のお陰で幸福な20年が活気に満ちてあつたし、その成功は、他の道では得られさうにない社会に於ける名誉・地位・評判を私に與へた。私の著述の自由な書き振りは確かに頑迷な一派を怒らせたが、自分が針に刺される恐れはないから、大黃蜂の唸りにはすぐ馴れてしまつた。私の神経はぶるへ慄へるほど鋭敏でなく、文學者としての私の氣質は合わせなことに、苦痛より快樂の方を強く感ずるやうに出来ている。曖昧な譯分らずの賞讃を受ければ、著者の正しい自尊心は喜ぶどころか寧ろ不快に感ずるであらうが、個人や社会の尊敬を現す正當な證據を示された時には、無頓著で居られず又さうあつてはならない。自分は丁度今遠國の友人に或る程度の楽しみや知識を與へてゐるのだとか、他日自分の思想が未だ生れない人の孫にも知られるのだとか考へると、精神的な親しみも満たされる。私は王侯の御昵懇や御勲負を自慢するわけにはゆかないが、英吉利文學の庇護は遙か以前から書肆

の手に移つて居り、彼等がどの程度まで金離れが良いかといふことで雙方共通の成功が比較的最も明瞭に分るのである。恐らく私の財産が中庸を得てゐたことが、私の勉強を猛烈ならしめるのに貢献したであらう。

3 . 現在は疾過する一瞬であり、過去は最早存在せず、未来の展望は暗く疑はしい。今日がひょつとして我最後の日かも知れないが、かの一般には極めて眞實であつて而も個々には極めて詰まつてゐる確率の法則によれば、私は尚ほ 15 年ばかり許されてゐる。やがて私は、賢者フォントネルの判断力と経験とによつて彼の長き生涯中最も愉快な時期として選ばれた年輩に入るであらう。この人の選定にはかの雄辯な博物学者(ビュフォンを指す)も賛成し、人間の精神的幸福は圓熟の時代即ち、我々の感情は鎮まり、義務は果され、野心は満たされ、名と富は堅い土臺の上に確立されると考へられる年齢に達して得られると言つてゐる。この愛すべき偉人は、内輪の座談で彼自身の経験の價値を尙一層高めたが、この人生の秋の清福はヴォルテール、ヒュームその他多くの文学者に實例が見出されるであらう。私はこの愉しい学説を疑ふどころか是非採用したい。私は精神又は肉體が早期に衰弱するとは考へないが、時の短くなるのと望みの叶はぬのと此の 2 つの原因が、常に人生の黄昏を一層暗い影で染めるといふことは、不本意ながらも申さねばならない。

P256 ~ 260

#### [コメント]

「ローマ帝国衰亡史」の著者であるギボン先生の静かで趣きのある自伝の最終章。20 年間、一つの著作の執筆に自らの全勢力を傾けたギボン先生のひたむきさがよく理解できる。いつの日か全巻をゆっくり読み通したい。

- 2010 年 4 月 21 日 林明夫記 -